

かぐらおか

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 167 号

平成 29 年 5 月 24 日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



「かみゆうべつチューリップ公園」

(写真撮影：学生支援課)

平成28年度学位記授与式 学長挨拶 ……学長 吉田 晃敏……2	卒業にあたって ……看護学科第18期卒業生 小林 早紀……15
7 年 間 ……医学科第39期卒業生 小林亜莉沙……12	卒業にあたって ……看護学科第18期卒業生 竹内 碧……16
2 度目の学生生活を終えて ……医学科第39期卒業生 麩澤章太郎……12	卒業にあたって ……看護学科第18期卒業生 出村 唯……16
卒業にあたって ……医学科第39期卒業生 大久保 諒……13	卒業にあたって ……看護学科第18期卒業生 山川 楓太……17
卒業にあたって ……医学科第39期卒業生 佐藤 壘……13	平成28年度 学位記授与式 ……………18
卒業にあたって ……看護学科第18期卒業生 石上 実那……14	平成28年度 保健師卒業セミナー開催 ……………20
卒業にあたって ……看護学科第18期卒業生 小川 碧友……14	卒業生の動向(医学科) ……………21
卒業にあたって ……看護学科第18期卒業生 小野田ひかる…15	卒業生の動向(看護学科) ……………22
	飲酒事故の防止について ……………23
	ソーシャルメディアの適切な利用について ……………23
	教員の異動 ……………24
	今後のスケジュール ……………24



平成28年度学位記授与式 学長挨拶

旭川医科大学 学長 吉田 晃 敏

医学科第三十九期生126名の皆さん、並びに看護学科第十八期生56名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんを今日まで育てて来られたご家族の皆さんの感慨もひとしおと思い、重ねてお祝いを申し上げます。学年担任を始め教職に当たられた先生方、そして学生諸君といつも接してきた事務職員の方々も本当にお疲れ様でした。

また、看護学修士の学位を取得された12名の皆さん、医学博士の学位を取得された7名の皆さん、心からお祝いを申し上げます。共同研究者と苦勞を共にした努力と、その結果生まれた皆さんの優れた研究業績に対し、深く敬意を表します。

皆さんがこの誇りある学位を次の大きなステップにつなぎ世界に発信する、より高いレベルの医療人・研究者へと成長することを強く期待しております。

本学では、今年度から学位記授与式の内容を大きく変えました。例年は、「学長告辞」を述べていましたが、「卒業生へ贈る最終講義」と題して、卒業生の6年間、5年間、4年間の振り返り、併せて修士・博士の学位を取得された皆さんに対して、私の最終講義を行いました。本稿ではその講義スライドを示します。



医学科 第39期生 **126名**の皆さん
看護学科 第18期生 **56名**の皆さん

ご卒業おめでとう

医学博士**7名**、看護学修士**12名**の皆さん

おめでとうございます

本学の卒業生は、

医学科	4,031名
看護学科	1,201名
合計	5,232名

博士 **977名**
 修士 **179名**
 合計 **1,156名**

皆さんの先輩達は、
 全国の医療現場、研究機関、行政機関、
 そして海外の医療拠点などで活躍
 それぞれ高い評価を受けている

後に続く皆さん達は、
 自分自身の努力を鑑み、
「自信」を持って
 次の進路を考えてください

年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
卒業生	医学科					
	看護学科		1年生	2年生	3年生	4年生
大学						
社会						

年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
卒業生	医学科					
	看護学科		1年生	2年生	3年生	4年生
大学						
社会						



年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
卒業生	医学科					
	看護学科		1年生	2年生	3年生	4年生
大学						
社会						



年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
卒業生	医学科					
	看護学科		1年生	2年生	3年生	4年生
大学						
社会						



年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
卒業生						
医学科	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学			文部科学大臣賞 受賞			
社会						



年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
卒業生						
医学科	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学			尖閣諸島問題			
社会						



年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
卒業生						
医学科	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学			日中遠隔医療 開始			
社会						



年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
医学科	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学						
社会						



「医療の主人公は患者さん」という先生の崇高な理念や、実習時を合致連携による切れ目のない遠隔医療の実現、カルテの電子化、手術の公開といった先進的な取り組み、中国との遠隔医療ネットワークの構築などに関して、情熱に満ち溢れた先生のご説明を拝聴し、深く感銘を受けました。また、少子高齢化が進展する中で、新たな成長分野としての医療の可能性について確信を得た思いがいたしました。限られた時間ではありましたが、お陰様をもらまして、大変有意義な出張となりました。

来筆ながら、要務ご多端の折、一層ご自愛のうえますますご活躍されますよう、また、先生の理想が一日も早く実現しますようお祈り申し上げます。略儀ながら書中をもちましてお礼申し上げます。

平成24年5月15日
白川方明

年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
医学科	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学						
社会						



年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
医学科	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学						
社会						





講義実習棟
改修1年目



講義実習棟
改修2年目(完成)



年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
医学科	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学						
社会						

**開学40周年
記念式典**

旭川医科大学
開学40周年記念式典 (2013年11月5日)



- 記念講演会
- 記念式典
- 記念祝賀会



102歳の 大先輩
日野原 重明 先生から、
「いつまでもチャレンジ精神を！」
熱いメッセージを頂きました

旭川医科大学
開学40周年記念式典 (2013年11月5日)



- ・記念講演会
- ・記念式典
- ・記念祝賀会



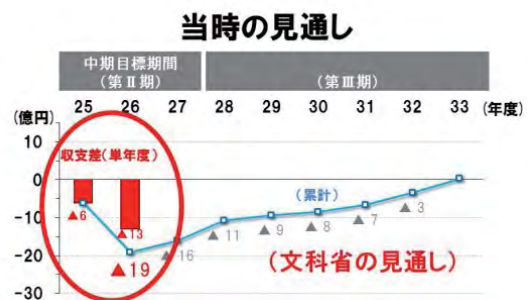
年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
卒業生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
医学科						
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学						
社会						

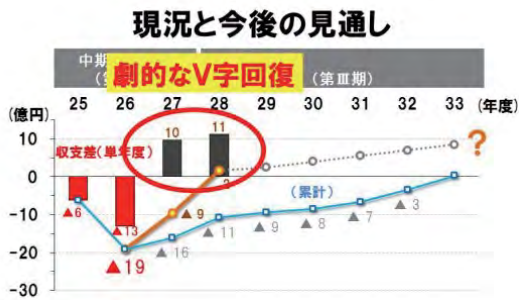


年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
卒業生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
医学科						
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学						
社会						



年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
卒業生	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
医学科						
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学						
社会						

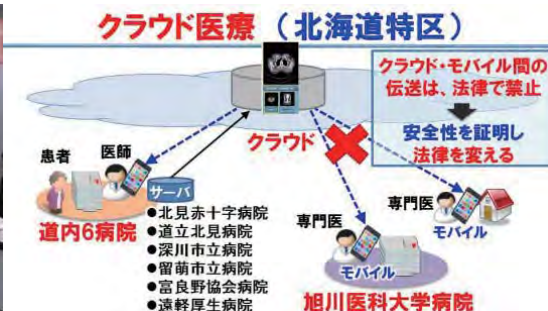




年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
医学科	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学						熊本地震
社会						



年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
医学科	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学						『クラウド医療』を開始
社会						



- ### クラウド医療は、
1. 人(患者・医師)を動かさず、情報を動かす、時空を超えた新しい医療
 2. 医師が偏在している日本の医療を救う
 3. 医療費の削減に有効
 - ① 患者は、必要な時だけ、必要な病院に行く
 - ② 医師は、必要な時だけ、必要な病院に行く
 - 1: 医師に時間的余裕
 - 2: 地方病院が、出張医に支払う報酬が大幅に減る
 4. Big Dataを 集める

この世界初の技術を発表するのは
「世界の中心: ニューヨーク」しかない
(外務省北米第2課)と確信し、
乗り込みました





NHKは、これを全世界に1日で9回放映
NHK新記録

このニュースは、この日、世界で9位
NHK新記録

NHKによれば、毎年100位以内に入るのは
 1~2件とのこと

ニューヨーク プラザホテルでの
 日本人の大規模な記者会見
 (過去3名、外務省)

1. SONY 盛田会長
2. ソフトバンク 孫社長
3. 旭川医科大学 吉田学長

即座に、大きな大きな反響が・・・

DUBAI
 1月12日~15日
 政府高官を訪問



昨年の成果をもとに、今年の世界へ飛躍
 (ニューヨーク 2016年12月3日)

クラウド医療を世界へ
 → これこそ 世界最大級のイノベーション:
 「医療革命」、「地球革命」

これは、commencementだ！
 すなわち、新しい時代の始まり

海外における日本医療拠点の構築に向けた 研究会

商務情報政策局
ヘルスケア産業課

座長 商社	慶應義塾大学	名誉教授	相川 直樹	ゼネコン	清水建設株式会社	国際支店 営業部 部長	鈴木 正信	
	伊藤忠商事株式会社	開発・調査部 担当課長	井上 秀二		大成建設株式会社	取締役常務執行役員 医療福祉 社営業本部長	吉成 泰	
	双日株式会社	化学本部メディカル・ヘルスケア 事業推進室長	濱中 通陽		株式会社竹中工務店	医療福祉・教育本部 本部長	角 晴輝	
	豊田通商株式会社	食料・生活産業本部ヘルスケア 部長	渡辺 泰典		日揮株式会社	インフラ統括本部インフラプロ ジェクト本部 部長	三原 真	
	丸紅株式会社	情報・物流・ヘルスケア本部 ヘルスケア・メディカル事業部長	小林 隆		その他	アイテック株式会社	代表取締役社長	関 丈太郎
	三井物産株式会社	ヘルスケア・サービス事業本 部ヘルスケア事業部長	鷲北 健一郎			グリーンホスピタルサブライズ株 式会社	専務取締役 海外本部長	小林 宏行
三菱商事株式会社	生活流通本部 ヘルスケア部 部長	北浦 克俊	セコム医療システム株式会社	常務取締役		長野 祐一		

医療 関係者	公益社団法人日本医師会	副会長	今村 聡	金融等	独立行政法人国際協力機構人間開発部	次長 兼 保健第 二グループ長	底野 晃三
	一般社団法人日本病院会	副会長	相澤 孝夫		株式会社国際協力銀行産業ファイナンス部門	産業投資 部長	橋山 重人
	公益社団法人日本看護協会	副会長	大久保 清子		株式会社産業革新機構	投資事業グループ ディレクター	真名 保宇
	一般社団法人Medical Excellence JAPAN (MEJ)	業務執行理事	北野 選也		グループジャパン機構	専務執行役員	若井 英二
	慶應義塾大学病院	副病院長 医学部外科学 教授	北川 雄光		株式会社三井住友銀行	成長産業クラスター 執行役員 ユニツト長	工藤 慎子
	順天堂大学	学長	新井 一		株式会社みずほ銀行	産業調査部 公共・社会インフラ 室 室長	川手 康司
	旭川医科大学	学長	吉田 晃敏				
	大阪大学大学院	医学系研究科長	澤 芳樹				
	筑波大学附属病院	病院長	松村 明				
	医療法人鉄菓会塩田総合病 院	経営企画部長	真田 正博				

オブザーバー

- 特定非営利活動法人海外医療機器技術協力会
- 一般社団法人海外建設協会
- 損保ジャパン日本興亜株式会社
- 東京海上日動火災保険株式会社
- 一般社団法人日本医療機器産業連合会
- 一般社団法人日本画像医療システム工業会
- 日本製薬工業協会
- 日本電気株式会社
- 富士通株式会社
- 独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)
- 内閣官房
- 外務省
- 厚生労働省
- 国土交通省

旭川医科大学 キャンパスマップ



私のビジョン

「旭川医大・遠隔医療センター」に隣接して
「国際医療・支援センター」を設立



政府、大学、機器メーカ、商社

International Medical Education Institute

私のビジョン

「国際医療・支援センター」で、

- 医師、看護師、(ICT担当)技術者等を、各国から、毎年10名位ずつ、受け入れ、「高度医療」を教育
- 「日本製の」最先端・医療機器を使い、帰国後は先方の国に、それを購入してもらい、教育を継続
- 教育の継続には、旭川医科大学しか実践していない「クラウド医療」を海外へ応用
- 相手国の医師などを十分に教育した上で、相手国に病院を造る

そして、旭川医科大学が
国際医療支援のエンジンとなり、
旭川を「国際医療都市」にしたい！

年度	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)
医学科	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
看護学科			1年生	2年生	3年生	4年生
大学						

本学が、皆さんの6年間・4年間の夢の舞台でした → これからは世界へ？



私が皆さんへ贈るキーワード

①「自信」

そして

②「世界への飛躍とその継続」

やれば出来る！

必要なのは、

③「パッション！！」

そして、
④北海道の医療は、
「競争」より「協調」！

患者は少なくなる
(人口減少、少子・高齢化のため)

そのために、「世界への飛躍」がポイント！

とりわけ、北海道は、世界最先端の
「クラウド医療」の「特区」

今後1年、我々だけが許されている

「自信」・「世界への飛躍」
そして、「競争より協調」

私は、皆さんに、これらの言葉を贈りたい

卒業、おめでとう

これで、君達に対する
最終講義を終わります

ご清聴ありがとう

7 年 間

医学科第39期卒業生 小 林 亜莉沙



大学生活7年間の全てを800字にまとめる文才は私にはありません。しかし、貧しい語彙力の中で伝えたいことを表現できたら幸いです。

1年次に物理の単位を落とした私は、結果的に7年間大学に通うこととなりました。留年という一見暗いイメージの経験がありながらの7年を振り返ってみると、不思議と辛い思い出はわずかで、ほとんどが楽しかった思い出で埋め尽くされています。これは一重に先輩・同期・後輩たちを含めた全ての「友人」たちの存在のおかげです。

旭川医科大学の特徴として、全学生数が少ないことが挙げられます。私はこの規模のこの大学が大好きでした。廊下を歩けば友人にすれ違う。声をかける、かけられる。学年の垣根を越え仲良くなれる場(飲み会・学祭・運動大会など)が多い。深く関わられる機会が多いからこそ、人見知りであった私が留年しても浮くことな

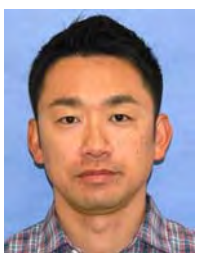
く、最後まで楽しく学生生活を過ごせたと思っています。友人たちに、叱咤激励されながらの7年間は私の人生においての宝と言えます。

また、「先輩という名の友人」の存在は、将来にも大きく関わってきました。生まれも育ちも長野県である私は、入学前、雪国同士だから気候も同じだろうと言って半ば北海道を舐めておりました。しかし、圧倒的積雪量に面くらい、大学生活の半分は長野を恋しんで泣きました。将来は北海道を出て長野で静かに暮らそうと思っていました。しかし、臨床実習に出て、現場の先輩医師と関わり、時にお酒を飲みながら語る機会が増え、「この先輩のもとで一人前の医師になりたい。」と思える方に出会い、大学の耳鼻科への入局を決めました。その際、積雪量などは気にもならなくなっていました。人との出会い>>気候であることを実感しました。

私にとって「友人」の存在は、大学生活の光であり、そして羅針盤でした。今まで関わってくださった全ての方々に感謝し、立派な医師になれるよう尽力していきたいと思います。

2度目の学生生活を終えて

医学科第39期卒業生 麴 澤 章太郎



私は幸運にも2度の学生生活を体験することができました。1度目は防衛大学校であり、2度目は、ここ旭川医科大学です。私は、防衛大学校を卒業後10年間、陸上自衛官として勤務していました。

ちょうどその頃父に膵臓癌が見つかりましたが、転移もしており、旭川医科大学病院で緩和ケアの治療を受けることになりました。そして、先生やスタッフの皆様のおかげで家族に囲まれて穏やかな最後を迎えることができました。そんな父の闘病をきっかけに私は、医師になりたいと強く思うようになりました。当時は30歳を過ぎ、年齢も年齢であり、別な道を目指すには最後のチャンスだと感じていました。ただし転職とは違い、編入試験にすんなり合格したとしても、5年間は収入のない生活です。妻や子供が惨めな思いをしないだろうかと悩みましたが、最後は妻が背中を押してくれました。

試験には無事合格し2度目の学生生活が始まりました。歳のせい、経験のせい、最小限の労力で単位を取ろうという気持ちは全くなく、むしろ失敗できるうちに困難なことに挑戦しようという気持ちでした。医学生教育は、解剖実習のための御献体、基礎や臨床の諸先生、臨床実習における患者様、職員の方々など多くの人に支えられていました。我々学生は誠意を持ってそれに答えなくてはなりません。私も私なりに努力をし、四年半1コマも休むことなく全ての授業に参加することができました。皆勤賞はどうやら成績とは結びつかなかったようですが、国家試験にも合格しいよいよ実践の舞台です。年齢も40に迫ろうとしています。熱意だけは負けないようにしようと思っています。最後になりますが、おじさんな私を受け入れていただいた大学、39期の同期、陸上部の先輩や後輩の皆様へ感謝いたします。そして私のわがママを支えてくれた妻にこの場を借りて最大限の感謝の気持ちを送りたいと思います。本当にありがとうございました。

卒業にあたって

医学科第39期卒業生 大久保 諒



この度医学部医学科を卒業しました39期大久保諒と申します。作文を親に書いてもらっていたような私の文章ですがお読みいただけたら幸いです。

6年間、次から次へと現れる課題をひたすら乗り越える学生生活でしたが卒業を機に振り返ってみると、この6年間で最も大きな収穫は「一生の仲間」ができたことだと思います。入学時は出身地も年齢も違う、ある程度人格形成が済んだ人々がこの逃げ場の無い土地で6年間ないし4年間ひとまとめになります。ここからは僕自身の経験ですが、入学して初めのうちは当り障りない会話しかできず戸惑いました。なにか大きな出来事があれば地元の友達に相談し、大学の友達には少し壁を作っていたようにも感じます。みんな人間できててすごいな、悩みなんで一人で解決できるのかな。そんな風に思っていました。勿論、様々なところで開かれる飲み会は非常に楽しく散々笑いました。しかし、どの

会も誰が一番面白いか大会になる傾向があり、自分の弱みなど見せられそうにもありません。ほぼ毎日飲み会を繰り返していましたが、帰ってくると謎の虚無感に襲われます。そこで、本音を正直に周りにぶつけてみることにしました。そうすると驚いたことに同じような思いを抱える人が多くいることに気づきました。本音で話すと本音が返ってきます。こうして私の人間関係は有機的なものとなり、かけがえのない仲間が出来ました。苦楽を共にし、間違った方向に進みそうになれば殴ってでも止めてくれる。これからもこの「一生の仲間」と共に様々な困難と立ち向かっていきたいと思えます。

果たしてこの考えが社会で通用するかは分かりませんが、同じような思いの方がいれば泥臭くても本音で話してみましよう、別に面白い話じゃなくてもいい。本音が返ってくるはずですよ。

最後になりますが今までお世話になりました先生方、先輩、後輩、同級生の皆様に感謝申し上げますと共に今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

卒業にあたって

医学科第39期卒業生 佐藤 壘



医師を志し旭川医科大学に入学してから、早いもので6年の月日が経ちました。瞬く間に過ぎていった6年間でしたが、たくさんの思い出が詰まったかけがえのない時間となりました。友だちとの大学生活や旅行、所属していたバスケットボール部の活動など、たくさんの楽しい思い出があります。テスト勉強、病院実習、国試勉強と辛く感じたことも少なからずありましたが、なんとか乗り越えることができました。

6年間で振り返り、私が力をいれてきたものは何かと考えると、精一杯がんばってきたと胸を張って言えるのは、部活動に対してだけです。学生の本分である学業に熱心に取り組むことができたよかったです。この点は反省しなければなりません。しかし、部活動は6年生の11月に引退するまで、活動を通して多くのことを学びながら、最後までやりぬくことができました。なんの取り柄もない私ですが、ひとつ

のことを最後までやりぬくことができたということが大きな自信となり、成長できたと感じています。4月からは、いよいよ医師として働くこととなります。不安でいっぱいですが、6年間部活動に向けていた熱意を医学に、そして目の前の患者さんに向け、誠実な医師を目指し精進していきたいと思えます。

今最も実感していることは、本当に多くの方々の支えがあったからこそ、無事卒業を迎えることができたということです。テストや実習がつかかったとき、友だちと支えあって乗り越えることができました。卒業後の進路に悩んだとき、親身に話を聞いてくださる先生方がいました。バスケットボール部のみんなからは、たくさんの楽しい思い出をもらいました。そして、両親をはじめとする家族は、暖かく見守ってくれました。わたしの6年間は、優しい方々に支えられて、とても幸せな時間となりました。感謝の気持ちでいっぱいです。この場を借りて、関わっていただいたすべての方々にお礼申し上げます。本当に、ありがとうございます。

卒業にあたって

看護学科第18期卒業生 石上実那



平成29年3月24日、私は旭川医科大学を卒業しました。4年間の大学生活というものは思ったよりもあっという間で、頑張って乗り越えてきた講義や実習、部活動などの楽しい思い出が昨日のここのように思い出

されます。

看護師である母親に憧れて目指した看護師の道。その夢を叶えるために私はこの旭川医科大学に入学しました。母からは、「看護の道は決して楽なものではない。」と言われており、少し不安はありましたが、心のどこかで「大丈夫だろう」という甘い考えを持っていました。現実には母の言葉通りで、辛いことが連続する日々でした。特に実習では、自分の思うようにいかないことが何度もあり、その度に涙を流し、挫折しそうになりました。そんな時、私の隣には必ず先生や友人そして家族がいてくれました。何度も支えてくれた周囲の人たちには、感謝してもしきれません。もしその支えがなければ、

途中で挫けてしまっていたと思います。周囲の人と支えあうことができる恵まれた環境にいるという事を、改めて実感することができました。

また、先生や家族、友人の存在の他にも私の心の支えになったものがあります。それは、私が過去に受け持たせていただいた全ての患者さんの笑顔や言葉です。どんなに辛かった実習でも、患者さんの笑顔が見られたり、「ありがとう」という言葉をいただいただけで、「ここまで頑張ってきてよかった」と思うことができました。

私は就職し、夢のスタート地点にやっと立つことができました。大学生活では沢山の人に支えられる大切さを知ることができたので、これからは看護師として少しでも多くの患者さんの支えになれたらと思っています。また、この4年間で学んだ様々なことを生かしながら、一人前の看護師になれるように精進していきたいと思っています。

卒業にあたって

看護学科第18期卒業生 小川碧友



入学からあっという間に4年が過ぎ、遂に卒業を迎えようとしています。「おおきくなったらかんごふさんになる」幼稚園の卒園アルバムには既にそう書いてありました。幼い頃によく入院していたわたしにとって看護師という

職業は身近で、物心ついたころにはなんとなく看護師になりたいと思うようになっていました。そして、高校生の時に参加させてもらった看護体験で患者さんにかけてもらった言葉をきっかけに、看護師を目指すことを決めました。

4年前、たくさんの希望と不安を胸に旭川医大の門をくぐり、幼い頃からの夢であった看護を学び始めましたが夢と現実の違いも多く、「看護」というものがわからなくなったこともありました。しかし、講義や実習を重ね、多くの患者さんと出会うことで自分が大切にしていきたいものは何かを少しずつ見つけることができたと同時に、自分の行った看護が患者さ

んの回復や笑顔につながることの喜びや看護の魅力を感じることができました。一方で、自分の無力さに直面したり、看護師に向いていないと思うことも多々ありましたが、学生生活での経験や学びを糧に、一人ひとりの個性や背景をよく考え、共に歩むことの出来る看護師になりたいと思います。

大学生活は勉強だけではなく部活動やアルバイトに勤しんだり、友達と遊びまわったり…たくさんの思い出が詰まっていて、振りかえるといつまでも笑いあえるような素敵な4年間でもあります。そんな大学生活を通して日々感じたことが「感謝」です。お世話になった先生方や臨床スタッフの皆様、受け持たせていただいた患者さんはもちろんのこと、一緒に笑って泣いて過ごしてきた友達、部活の先輩・後輩・同期、大変な時に支えてくれた家族…。たくさんの人に支えがあったからこそ卒業を迎え、社会人への一歩を踏み出せるのだと思います。これからも周囲への感謝を忘れず、自分の目標に向かって進んでいきたいと思っています。

卒業にあたって

看護学科第18期卒業生 小野田 ひかる



まだ雪が降り寒さが残る4年前の4月、私はこれからの大学生活に期待と不安を持ちながら迎えた入学式の時の気持ちを今でも覚えています。あの日から4年が経ち、今の自分はその時思い描いていた姿になっているかと問われると、きっとその通りではないと思います。なぜなら、この4年間ではたくさんの経験を経て、想像していた以上のものを得て成長できたという実感があるからです。

私は世話好きな性格もあって、幼いころより看護師を目指しており、高校生の頃には助産師を志すようになっていました。大学へ入学後は自分の目指す道である助産師課程を専攻できるよう一生懸命勉強をしていましたが、講義や実習を重ねていくうちに、病める人に寄り添いたいという気持ちも強くなり、看護師として働く道を選ぶか迷った時期がありました。しかし、私は女性の一生をサポートする助産師の役割の根底にも「看護」が欠かせないものとしてあることに改めて気づき、助産師として看護をする

道を選びました。

4年次からは本格的に助産師課程の講義や実習が始まりましたが、これも様々な意味で自分の想像を超えるものでした。次から次へと立ち上がる壁を思うように超えていけない悔しさや、妊産婦さんや赤ちゃんとの関わりから得た感動や達成感で、助産専攻の4人でたくさん泣いたことは良い思い出です。多くの経験の中、辛く苦しい時にいつも私を支えてくださったのは、妊産婦さんや赤ちゃん、助産師の先輩方、家族、先生方、そして共に頑張った友人たちでした。その他にも部活動の先輩や後輩、看護研究を共に行った友人、看護学科同期の友人にもたくさんの励ましや助けをもらいました。ありきたりな言葉ですが、多くの方に支えられて今の自分があると心の底から思い、感謝の気持ちで溢れています。

看護師・助産師の国家試験に合格した今、私はやっと恩返しのできるスタートラインに立てました。自分を育ててくれた方々への感謝を忘れず、理想の助産師像に近づくようこれからも努力していこうと思います。

卒業にあたって

看護学科第18期卒業生 小林 早紀



先日、国家試験を終えて部屋の整理をしていた際に、入学直後の自分が必死に書いていた課題を見つけ、その内容の拙さに驚きました。そして、この4年間で少しは成長できたのかなと感じる反面、あと少しで看護師として働くということを考えてとても不思議な感覚です。

看護の道を目指したきっかけは、中学生のときに受講した救急救命講習でした。それ以降、進路希望の紙には常に看護と書いてきましたが、看護というものがどのようなものなのか分からずに選択していたのだな、というのが入学後の率直な感想でした。看護は、それまでの勉強とは異なり、答えがその時々や個人によって変化する難しさがあります。また、言いにくい内容を伝えなくてはならない場面などもあり、言葉の選び方ひとつをとっても、患者さんの思いや考え方に影響することを考えると、とても難しいものでした。そんなときに話を聞いて相談に乗ってくれた友人や助言

を下さった先生方、支えてくれた家族には月並みな言葉ですが感謝の気持ちでいっぱいです。自分一人では講義や長い実習を乗り越えられなかったと思います。そして、そんな不甲斐ない自分に温かく接してくださった患者さんとの関わりは、私に看護師の魅力を教えてくれたかけがえのない経験であり、これから働いていく上で何よりの支えになると感じています。

また、部活動では空手道部に所属していました。体を動かしたい、武道に興味がある、くらいの気持ちで始めた空手でしたが、こちらも周りの人に恵まれ、充実した時間を過ごさせてもらいました。縁あって卒業後も道場で空手を続けていくことになり、入部が自分の生活を変えるひとつのきっかけになったように思います。

4月からは看護師として大学病院で働くこととなります。社会人としてより一層責任ある立場となることへの緊張や不安は大きいですが、素直な気持ちを忘れずに、自分の理想の看護師像に少しずつでも近づいていけるよう頑張りたいと思います。

卒業にあたって

看護学科第18期卒業生 竹内 碧



入学してからこの4年間は、長いような短いような時間でした。入学したばかりのころは、慣れない講義や実技演習に必死についていくばかりで、遊ぶ余裕も、趣味を楽しむ時間

もありませんでした。そのような中で、なぜ自分はこの道を選んだのかと自問自答する日々が続き、苦しい思いもしました。

しかし、初めての病院実習では、急性期の患者さんを受け持ち、人間の回復力の高さや強い生命力を目の当たりにしました。そして、希望を持ちながら困難を乗り越えていこうとする患者さんと出会い、自分自身の考え方も変わっていききました。看護を学び、実践するということは、人が生きるのを支えていくと同時に、自分自身の生きる原動

力になるということを知りました。それからは、しっかりと目的意識を持って講義や演習から学ぶことができたと思います。3年生の後期からは、保健師の講義も始まり、自分の将来をより具体的に想像しながら、勉強することができました。保健師実習では、たくさんの方との出会いがあり、喜びや楽しさを感じながら勉強することができました。

この4年間は、楽しいことだけでなく、つらいこともありましたが、自分の人生について考える機会ともなり、自分自身と向き合うきっかけになったとも思います。そして、その苦しみから学び、成長できました。これからは、この学びをいかし、保健師として頑張っていきたいと思っています。

卒業にあたって

看護学科第18期卒業生 出村 唯



旭川医科大学に入学してからあっという間に4年が経ちました。卒業式で学長から学位記を手渡され、ようやく卒業の実感が湧いてきました。大学生活を振り返ってみると、この4年間は私にとって非常に有意義なものとなりました。

私は3歳の時に妹が生まれたことをきっかけに助産師を志望するようになり、入学時から助産師になることを目標として過ごしてきました。助産専攻は覚悟をしていた以上にハードで、知識や考えが追い付かず自分の無力さに何度も涙を流した記憶があります。時には、看護職は向いていないのではないかと落ち込んだこともありました。しかしそれ以上に、実習先での妊産婦さんやその御家族・助産師との関わりを通して女性の一生に携わることのできる助産師という職業の魅力を知り、何度も心を揺さぶられました。

また、仲間と切磋琢磨できたこの1年間は非常

に充実しており、忘れられない1年となりました。このように感じられるのも、どんな時でも励まし、応援して下さる友人・家族・先生方のサポートのおかげです。大変であればあるほど周りの方々に支えられてきたということを感じました。今後も周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに、自身の目指す助産師像に近付けるよう日々努力を怠らず邁進していきたいと思っています。

私は、部活動で4年間、陸上競技部に所属していました。目標とする記録に向かって貪欲に努力し、仲間と共に辛い練習に励んだ日々が忘れられません。また、部を運営するということは大きな責任を伴い、自分1人の行動を省みるだけでなく、全体を俯瞰して観察し、全体としてどういう方向へ向かえばよいかを考える大切さを学ぶことができました。

春からは社会人として、旭川医科大学を卒業したという自覚と責任を持ち、学び続ける好奇心を忘れずに自己の研鑽を積んでいきたいと思っています。

卒業にあたって

看護学科第18期卒業生 山 川 楓 太



旭川医大に入学したのがついこの前だったような気がするほど、4年間はあっという間でした。ですがそれは、充実した学生生活だったからだと思います。

私は昔から運のよい方な人間で、ある程度のこととは、特に自分で努力しなくても、なんだかんだ乗り越えられてきていました。しかし、大学ではそううまくもいかず、少し悲しい反面、これが大人になることなのかなとも思いながら、自分自身少しでも変わればよいなという気持ちでした。

大学には、保健師を目指して入学しましたが、4年間のうちのほとんどが看護師の勉強であり、続けられるか不安でいっぱいでした。ですが、今考えるとそれも自分の成長の糧になっていたと思います。特に、実習で多くの患者さんと関わらせていただきましたが、どの患者さんからも多くのことを教えてもらうことができ、頑張っただけでよかったと今では強く思います。

部活動では、サッカー部とゴルフ部に所属していました。系統の異なる部活に所属し、活動したことで、考え方の幅がとても広がり、私生活にも良い影響となっていたと思います。

その他にも、さまざまなことを得られましたが、一番の学びは、失敗を恐れないということだったと思います。これは、スポーツだけではなく、どんなことにもいえると思いますが、自分が成長するためには失敗してもいいから挑戦することが必要で、これから社会人として生きていく上でとても大切なことを学べたと思います。

このような充実した大学生活を送ることができたのも、同期や先輩、後輩、先生方、受け持たせていただいた患者さん、病棟の方々など、本当に多くの人の支えのおかげだと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

4月からは、運もあり、旭川市で保健師として働くことになりました。これまで支えてくれた人たちに少しでも恩返しができるように、自分なりに精一杯取り組み、成長した姿を見せていきたいと思っています。

平成28年度 学位記授与式

平成29年3月24日（金）小雪の舞う中、本学体育館において平成28年度学位記授与式が行われ、医学科126名、看護学科56名、博士課程6名、論文博士1名、修士課程12名にそれぞれ学位記が授与されました。

今年度は新たな試みとして、会場内左右に大型スクリーンが配置され、学位記授与式の様子が投影されました。卒業生は、室内合奏団の演奏がBGMで奏でられるなか、一人ひとり学位記を手渡され、吉田学長と固く握手を交わしました。その晴れやかな姿もまた、スクリーンを通して学生生活を共にした仲間や保護者の方々と共有することができたようです。

学位記授与に引き続き、在学期間を通じて極めて優秀な学業成績を取めた学生に授与される「学業成績優秀者表彰」が行われました。この表彰は、昨年度までは別会場で実施されていましたが、今回から学位記授与式のなかで執り行われ、医学科 山本朝日さん、齋藤僚太さんと、

看護学科 小林咲月さん、小野田ひかるさんの4名が、学長から一人一人に木彫りの表彰楯が授与され、共に切磋琢磨した仲間やご家族、先生方から祝福されました。

さらに、昨年度まで行われていた学長告辞に代えて、今年度は「卒業生へ贈る最終講義」と題した学長挨拶が行われ、卒業生に対し、「皆さんに必要なのはパッション！自信を持って、大きく世界に飛躍してもらいたい。」と激励のメッセージが送られました。

最後に、卒業生代表として、医学科 山本朝日さんと看護学科 小林咲月さんから卒業生謝辞が述べられ、大学生活を振り返り、また、新社会人としての抱負を披露しました。

また、13時00分からは、本学学生食堂において祝賀会が行われ、医学科・看護学科のそれぞれの同窓会長からの祝辞をいただき、軽食を取りながら、これまでお世話になった先生方や共に過ごした仲間と語り合いました。





室内合奏団による国歌演奏



学長と握手を交わす表彰者



学業成績優秀者表彰を受けた4人



表彰楯の授与



卒業生謝辞



学長による最終講義



祝賀会の様子



祝賀会会場にて

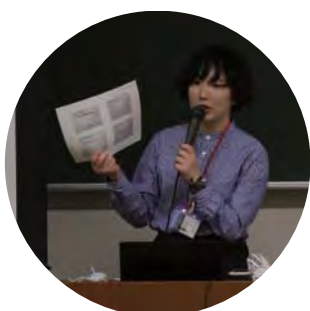
平成28年度 保健師卒業セミナー開催

この春から保健師として羽ばたく看護学科第4学年10名と、保健師という仕事に興味を持つ第1～3学年の学生を対象として、3月17日（金）10時30分から平成28年度保健師卒業セミナーがD講義室で開催されました。本セミナーは、①専門職業人として就職するための心構えを持つ、②先輩後輩、保健師志望学生のネットワークを作る、③就職に関するあらゆる不安を軽減する、④保健師活動を理解し、仕事・就職活動・学習へのモチベーションを高める、という4つを目的として、看護学科同窓会のご協力を得ながら毎年開催されており、今年度は卒業生8名を含め29名の参加がありました。

午前の部では、札幌市と広尾町にそれぞれ内定が決まった合田奈央さんと甲斐晴香さんから、保健師課程の実習・演習の流れや大変な時期を乗り越えるコツ、他の学生と比べてスタートダッシュが遅れてしまう国家試験対策や就職活動等について報告がありました。午後からは、昨年4月から1年目保健師として奮闘されている本学卒業生8名も加わり、シンポジウムが行われました。奈井江町、佐呂間町、南富良野町、稚内保健所の各地で勤務されている4名の先輩方から、住民と真摯に向き合う中で得られる感動や喜び、対応の難しさ、プライベートの過ごし

し方等についてお話いただきました。特に、南富良野町の保健師として働き始めて5か月目の昨年8月に、台風10号の大雨による水害で甚大な被害を受け、自らも被災しながら保健師として出来ることは何かを模索しつつ、住民の声を聴くことを大切にしたいという卒業生のお話が印象的でした。

セミナー後のアンケートでは、「保健師という仕事がいかにその地域の住民の方達にとって必要な存在であるかが伝わってきて、涙が出そうになるくらい感動した。（1年生）」「保健師の魅力が改めて知ることができ、ますます保健師になりたいと思った。（2年生）」、「フワフワしていた自分の中の保健師像が徐々に固まってきたように感じました。（3年生）」、「これから社会に出て失敗することも多くあると思うが、自分の力に変えていけるように頑張っていきたいと思った。（4年生）」「今までの4年間を振り返って、とても良い学びをしてきたんだなと思った。（4年生）」「同期が他の市町村で頑張っている様子が知れて勇気が出た。（卒業生）」といった声があり、卒業生と在校生との交流を通しそれぞれに貴重な時間を過ごすことが出来たようです。



卒業生の動向（医学科）

平成29年3月24日（金）に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

（学生支援課）

区 分		大学及び病院名等	平成28年度卒業生		
			男	女	計
進 学	小 計		0	0	0
就 職	道 内	本院（旭川医科大学病院）	22	11	33
		北海道大学病院	1	0	1
		その他	40	16	56
		計	63	27	90
	道 外	大学関係病院	5	2	7
		その他	12	7	19
		計	17	9	26
	小 計		80	36	116
未 定・その他			7	3	10
合 計			87	39	126

上記以外の病院名

道 内：旭川医療センター、市立旭川病院、旭川赤十字病院、旭川厚生病院
 北海道医療センター、斗南病院、札幌医科大学病院、市立札幌病院、札幌厚生病院、
 勤医協中央病院、市立稚内病院、名寄市立総合病院、砂川市立病院、
 富良野協会病院、帯広第一病院、八雲総合病院、KKR札幌医療センター、
 NTT東日本札幌病院、網走厚生病院、岩見沢市立病院、小樽市立病院、
 富良野協会病院、札幌東徳洲会病院、恵み野病院

道 外：東北大学病院、東京大学医学部附属病院、千葉大学医学部附属病院、
 京都大学医学部附属病院、群馬大学医学部附属病院、横浜市立大学附属病院
 東京慈恵会医科大学附属病院、大阪市立総合医療センター、川口市立医療センター
 兵庫県立加古川医療センター、横浜市立みなと赤十字病院、佐久市立国保浅間総合
 病院、市立加西病院、浦添総合病院、大津赤十字病院、大手前病院、聖路加国際病
 院、総合病院国保旭中央病院、淀川キリスト教病院、名古屋徳洲会総合病院、
 福岡徳洲会病院、南部徳洲会病院、上尾中央総合病院、一宮西病院、朝霞台中央総
 合病院

卒業生の動向（看護学科）

平成29年3月24日（金）に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

（学生支援課）

区 分		大学及び病院名等	平成28年度卒業生		
			男	女	計
進 学	道 内		0	0	0
	小 計		0	0	0
就 職	道 内	本院（旭川医科大学病院）	5	27	32
		北海道大学病院	0	4	4
		帯広厚生病院	0	1	1
		その他	0	1	1
		保健師 地方自治体	1	9	10
		助産師 本院（旭川医科大学病院）	0	2	2
	その他	0	1	1	
		計	6	45	51
	道 外	看護師 大学関係病院	0	1	1
		その他	0	2	2
		保健師	0	0	0
		助産師	0	1	1
		計	0	4	4
		小 計	6	49	55
未 定・その他			0	1	1
合 計			6	50	56

上記以外の病院名等

道 内：天使病院、森産科婦人科病院

札幌市、旭川市、釧路市、帯広市、富良野市、上富良野町、広尾町、余市町、芽室町、北海道日高振興局浦河保健所

道 外：新潟大学医歯学総合病院、日本赤十字医療センター、

東京ベイ・浦安市川医療センター、済生会横浜市南部病院

飲酒事故の防止について

6月9日（金）から大学祭が開催されるにあたり、普段よりも飲酒の機会が増えることとされます。

従来から、学生団体代表者に対して、飲酒事故の防止について指導を行っていますが、部活動単位での飲み会に限らず、短時間に大量のアルコールを摂取することによる急性アルコール中毒を引き起こしたり、嘔吐物による窒息死を招いたりするような、危険な飲み方は絶対にしないでください。

また、アパート等での深夜に及ぶ騒音等により、大学に苦情が寄せられていますので、近隣住民に迷惑をかけることのないよう、医大生としての自覚と責任を持って、節度ある行動を心がけてください。

このような行為が認められた場合は、懲戒処分（訓告、停学、退学）の対象として、大学として厳正に対処します。

ソーシャルメディアの適切な利用について

スマートフォンの普及に伴い、誰でも手軽に広く情報を発信することができる「ソーシャルメディア」（Twitter、Facebook、LINE、Instagram、Google+等）が広く社会に浸透し、今や学生生活には欠かせないツールとなりました。

しかし、仲間同士で楽しく活用できる反面、その影響力に対する認識不足から、発言内容が思わぬトラブルにつながる事例も発生しています。全国的にも、若者を中心とした不適切な発言や写真投稿によりSNSが炎上するというニュースが相次いでいます。

ソーシャルメディアには、読者を限定して情報を発信できるものもありますが、設定によっては、不特定多数の人が皆さんの発信した情報を見ることができます。一度発信した情報は、完全に削除することはできませんので、情報を発信する際には、常に公開範囲の設定がどうなっているかを確認してください。皆さんの何気ないちょっとした発言により、傷ついたり、不快に感じたりする人がいることを常に意識し、社会に大きな影響を与える場合があることを自覚してください。

また、ソーシャルメディアを利用する際には、法令を遵守することはもちろんのこと、本学の規程も遵守してください。大学や病院、臨床実習先で知り得た情報には、守秘義務が課せられていますので、このような情報を不用意に発信しないよう十分注意してください。本学学生として良識ある発言を心がけ、皆さんの行動や発言が、本学の信用に大きな影響を及ぼすことを自覚してください。

なお、ソーシャルメディアの不適切な利用が認められた際は、懲戒処分の対象とすることがあります。



教 員 の 異 動

平成29年3月31日	退職	医学部眼科学講座	准教授	長岡泰司
平成29年3月31日	退職	病院眼科	講師	佐藤栄一
平成29年3月31日	退職	病院集中治療部	講師	長島道生
平成29年4月1日	出向復帰・昇任	教育研究推進センター	准教授	竹原有史
平成29年4月1日	昇任	医学部病理学講座（免疫病理分野）	講師	大栗敬幸
平成29年4月1日	昇任	病院眼科	講師	十川健司
平成29年4月1日	昇任	医学部救急医学講座	講師	小林厚志
平成29年4月1日	採用	教育研究推進センター	准教授	上田潤
平成29年4月1日	採用	医学部看護学講座	准教授	児玉真利子
平成29年4月1日	採用	病院集中治療部	講師	丹保亜希仁
平成29年5月18日	昇任	医学部内科学講座 (循環・呼吸・神経病態内科学分野)	准教授	藤野貴行

今後のスケジュール

- 6月9日（金）～11日（日） 医大祭
 7月8日（土） 医学科第6学年 卒業時OSCE
 7月1日（土）～7月23日（日）第64回（平成29年度）北海道地区大学体育大会

- | | |
|-----------------|---|
| 7月1日（土）・2日（日） | バレーボール大会（室蘭工業大学体育館） |
| 7月2日（日） | 剣道大会（帯広畜産大学体育館）※男子のみ |
| 7月8日（土） | 陸上競技大会（札幌市円山陸上競技場） |
| 7月8日（土）・9日（日） | 準硬式野球大会（札幌スタジアム） |
| 〃 | ハンドボール大会（小樽商科大学体育館） |
| 7月15日（土）～17日（祝） | バスケットボール大会（旭川市総合体育館） |
| 7月22日（土） | バドミントン大会（北海道大学第一・二体育館） |
| 7月22日（土） | 弓道大会（留辺蘂町弓道館及び体育館） |
| 7月22日（土）・23日（日） | サッカー大会（北海道教育大学岩見沢校人工芝サッカー場，サブグラウンド）※本学不参加 |